



—昭和大学歯科病院の理念—

患者本位の医療
先進医療の推進
良き歯科医師の育成

発行責任者 病院長 馬場 一美
編集責任者 広報委員長 丸岡 靖史
〒145-8515 東京都大田区北千束2-1-1
TEL 03-3787-1151(代表) いちいちごいち

ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp/SUHD/index.html>

歯並びとおもてなし

矯正歯科 准教授 中納 治久

2020年7月24日(金)、東京オリンピックの開会式が1年後に迫ってきました。5月29日初回五輪観戦チケット抽選販売では、申し込みに必要なID登録の件数が約750万件、販売サイトへの累計アクセス数が約2,425万件に到達し、関心の高さが伺えます。当初工期の遅れが心配されていた新国立競技場も9割方完成し、12月中旬には竣工するとのこと。私自身、観戦チケットが1枚も取れなかったことを除けば、ホッとひと安心です。

さて、2013年IOC総会における滝川クリステルさんの言葉を覚えていますか。「東京は皆さまをユニークにお迎えいたします。日本語ではそれを(おもてなし)という言葉で表現いたします。それは、見返りを求めないホスピタリティの精神。それは先祖代々受け継がれながら、現代の日本の文化にも深く根付いています。(おもてなし)という言葉は、いかに日本人が互いに助けあい、お迎えするお客様のことを大切に示しています。」だからこそ日本の伝統の一つに、この「おもてなし」があるのだと思います。我々は、この「おもてなし」を継承するために、歯並びの側面からお役に立てればと考えています。

日本臨床矯正歯科医会では、2010年に全国の10～50代の男女計1,000名を対象に、『歯並びと矯正歯科治療』に関する意識調査を実施しました。その結果、歯並びは第一印象を左右すると回答した人が72.6%にもものぼり、近年における日本人の歯並びへの関心の高まりが浮き彫りになっています。一般的に、日本人の表情は分かりづらいと言われます。昔の女性は、笑う時には、扇子か袖で口を隠して笑いました。それは、

奥ゆかしい、控えめな日本人の心情を表した文化なのでしょう。しかしながら、グローバル社会においては、分かりやすい表現がコミュニケーションには必要なのかもしれません。笑顔には歯並びが重要です。八重歯の写真を掲載します。皆さんはどの様に感じますか？歯並びは、見た目だけでなく、虫歯や歯周病を始め全身の健康問題にも大きく影響します。将来まで末永く歯を使い続けるためにも、ぜひ自分の歯並び・かみ合わせに関心を持ってください。そして、美しい笑顔を手に入れましょう。



さあ、皆さんはどのように東京オリンピック・パラリンピック2020に参加しますか。外国の方と接する機会も多くなることでしょう。ぜひ素敵な笑顔で「おもてなし」をしましょう。



診療科紹介:矯正歯科

矯正歯科 講師 芳賀 秀郷、助教(歯科) 佐久間 優弥

現在当科では、歯科医師45名・歯科衛生士5名および歯科ユニット20台の歯科診療室での診療体制となっております。一般的な小児矯正や成人矯正のみならず、専門的な手術を伴う顎変形症や唇顎口蓋裂などの不正咬合を伴う厚生労働大臣が定める疾患の矯正歯科治療も行っています。

では、当科の特徴的な診療内容についてご説明いたします。

(1) 矯正歯科治療中のう蝕(むし歯)予防管理

矯正歯科治療は多くの場合、固定式装置が装着され治療中の虫歯リスクが高まります。そのため口腔衛生指導や専門的クリーニングなど十分な口腔衛生管理が重要となります。当科では2018年から矯正歯科治療中のう蝕(虫歯)予防管理プログラムCAMBRA(Caries Management By Risk Assessment)を導入しました。CAMBRAは米国歯科大学65校中40校が教育プログラムとして採用している確立された予防管理方法になります。通法のプラークコントロールとは異なり個人のリスクに応じた個別のアプローチが可能となる点が優れております。



図1 ポスターおよび矯正歯科治療中の口腔内(染め出し前後)

(2) 先進的デジタル機器による新しい矯正診断・矯正歯科治療

矯正歯科治療を始めるにあたって、治療方針を

決定する『的確な診断』が重要です。当科では、低被爆歯顎顔面用コーンビームCTを用いた三次元的な骨格解析および口腔内スキャナーと矯正移動シミュレーターを用いた歯の移動シミュレーションを行っております。また以前はモニター上もしくは紙面上にしか再現できなかった資料もCADソフトと3Dプリンターを用いて三次元モデルを作成し、治療方針の決定及び患者説明に使用しております。



図2 矯正歯科移動シミュレーション(移動前後)および3Dプリンター応用例

(3) 非結紮式ジルコニア製ブラケット『マニューバ』と『アライナー型矯正装置』を併用した矯正歯科治療

当科では、「より安全に、より審美的に、より快適に」を目標に掲げ、口腔内に装着する矯正治療器具を開発しております。その1つとしてマニューバが薬事承認を受けました。この新しい矯正治療装置である『マニューバ』と『アライナー型矯正装置』(CAD/CAM光造形による口腔内取り外し式透明装置)の併用により、従来の歯科矯正治療の短所であった「装置が目立つ」、「痛みが出る」、「治療期間が長くかかる」等の改善に寄与するのではないかと考えております。

新入職員ご挨拶

4月1日より補綴歯科に助教(歯科)として入局いたしました中里友香理です。

私は2013年に歯科医師国家試験に合格し、その後当院の顎関節症治療科、補綴歯科にて臨床研修を行った際に、顎関節症や歯ぎしりなどの顎口腔系にさまざまな破壊的作用をもたらす疾患に興味を持ちました。

自分を含め、家族や友人も歯ぎしりに悩まされている現状から、本学大学院歯学研究科(歯科補

綴学)に入学し、日々の診療を行いながらも歯ぎしり抑制装置の開発にいそしむ毎日を送りました。

今年3月に大学院を修了いたしました。これからは教育職員として後輩や学生の育成に励むと共に、自分が学んできたことを診療においてより一層患者さんに還元できるよう、精進してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

補綴歯科 助教(歯科) 中里 友香理

今年度4月1日よりインプラント歯科に助教(歯科)として入局しました、昭和大学第36期卒業の石井康太です。

学生時代は弓道部に所属しており、当時は前歯学部部長である宮崎先生に部長を勤めていただき、その中でも私の歯科医師としての根幹となっていることが三つあります。

一つ目は「最後まで諦めずやり通す」ということです。これは私が歯科医師国家試験を合格できた大きな要因であると考えています。

二つ目は「誠意を持つ」ことです。患者さんに対して誠実に向かい合うことで、よりよい治療を目指すことができると考えています。

三つ目は「人との和」です。医局員の先輩方や研修医たちと協調して仕事をしていくことで、楽しい医局環境ができると考えています。

この三つの教えをモットーに、日本一のインプラント専門医になれるよう頑張っていきますのでよろしくお願いいたします。

インプラント歯科 助教(歯科) 石井 康太

最先端の技術と知識によって支えられた大学病院での医療に携わることができることを、大変誇りに感じていると同時に、その責任の大きさを感じております。

大学病院の特色としては、診療に加えて、医療の発展のための研究、そして教育に対しても力を注ぐことのできる環境であることだと考えております。これらの「診療」「研究」「教育」の三本の柱は、お互いに支えあっているものであり、これらの支えのすべてがより良い医療を築きあげると考えております。

当院の歯科医師としての使命と責任をモチベーションとして、患者さまお一人お一人に誠実に向き合いながら、それぞれの患者さまにとってベストの治療を心がけて行きたいと思っております。

また、最善の医療を目指す日々の努力が、学生時代よりお世話になった昭和大学、そして先生方、信頼して下さる患者さまへのご恩返しへの道だと思ひ、歯科医師としての決意を新たにしております。

高齢者歯科 助教(歯科) 大森 友花

部署紹介:リハビリテーション室

リハビリテーション室 山田 紘子

ことばの専門家である言語聴覚士2名が主に「発音」に対する相談・治療を行っています。また、指しゃぶりや舌癖などの異常習癖に対しては、筋機能療法士1名による口腔筋機能療法(MFT)を月1回行っています。

「ことば」は人とのコミュニケーションに欠かせない、口の機能のひとつです。うまく話せないと毎日、色々な場面で困ることがあります。当院には、特に以下のような患者さんが多くいらしています。

口腔がん手術後:舌がんなどの手術により変化した口の中の状態に合った発音方法を身につけるため、検査やトレーニングを行います。必要な方には特殊な義歯(舌接触補助床)を作製するなど、口腔リハビリテーション科の歯科医師と言語聴覚士が連携して対応しています。



歯科医師と言語聴覚士が連携して治療

機能性構音障害:医学的に明らかな原因がないのに上手に発音出来ない音がある状態をいいます。お子さんで多いのは、いわゆる「赤ちゃんこと

ば」です。自然に良くなることも多いのですが、なかなか良くならない、発音を気にしているなどの問題を生じた場合は治療を行います。当院は大人の患者さんも多く、仕事や学業で支障が出てお困りになり受診される方もいらっしゃいます。

その他、舌小帯短縮症、口唇口蓋裂の方への装置作製や訓練を、口腔リハビリテーション科の歯科医師と言語聴覚士が連携して行っています。

言語治療の窓口は3階の口腔リハビリテーション科です。ことばのことでお困りの際は言語聴覚士にご相談ください。



小児患者への言語訓練の様子



リハビリテーション室スタッフ

編集後記

大輪の紫陽花が梅雨空を彩る季節となりました。歯と梅雨にも関係があるのをご存知でしょうか。気圧の関係で急に歯が痛くなったり、気になる症状がある方は、ぜひお気軽に近くスタッフまでご相談ください。

(S.A)

